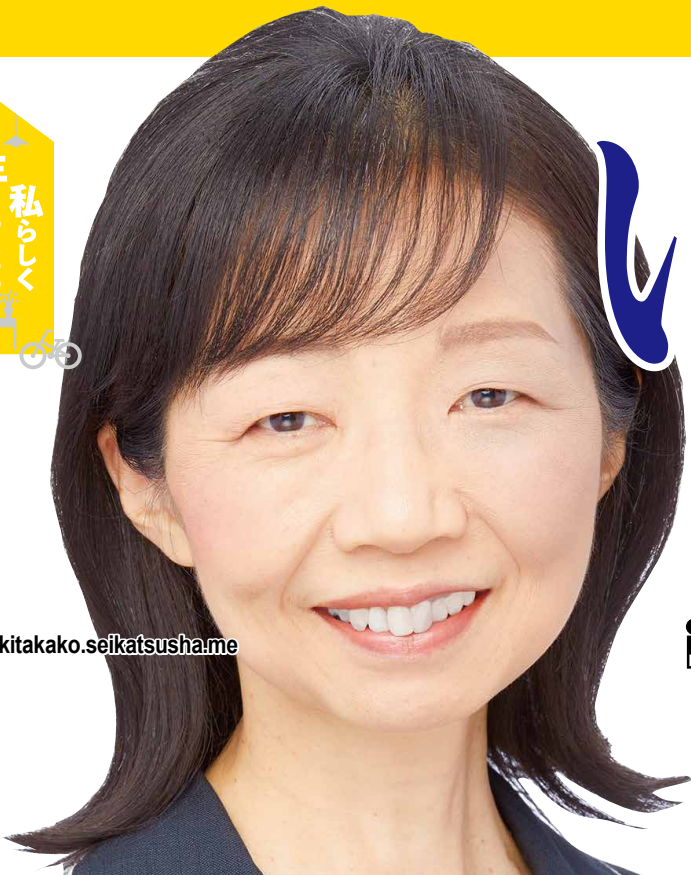


いながき 孝子

いながき たかこ

品川・生活者ネットワーク 区議会議員



<https://inagakitakako.seikatsusha.me>



品川・生活者ネットワークニュース No.134 [中部版]

発行：品川・生活者ネットワーク 発行責任者：井上八重子
発行日：2023年1月25日 〒142-0043 品川区二葉1-10-11
TEL03-5751-7105 FAX03-5751-7106
Eメール：shinagawa@seikatsusha.net
<https://shinagawa.seikatsusha.me>

いながき孝子 いながき・たかこ プロフィール

■1966品川区西五反田生まれ。区立第一日野小、日野中、都立大崎高校を経て國學院大學文学部史学科（2部）卒■1990～民間企業、東京職業能力開発センター等の外郭団体に勤務■1996～2000しながわ女性フォーラム実行委員■1997～1998男女共同参画のための品川区行動計画推進会議委員■2009～尾崎行雄記念財団号室塾塾生（2010～同会会員）■2010～一般社団法人「構想日本」勤務■2014～放射2号線を考える会事務局■2022～住み続けられるまちづくりをめざす品川区民の会副代表
■2022品川区議会議員補欠選挙に挑戦し初当選。会派：品川・生活者ネットワーク副幹事長、厚生委員会、区民と議会の交流会議
●趣味：歴史探訪、古武道、弓道、読書、旅行●西五反田在住

政治は、生活をよくするための道具です

2022年の漢字は「戦」でした。海外では戦火がいまだに止むことはありません。

そうした中、岸田政権は戦費の増強を言い出しています。国民の命を戦争から守るために必要なことは、戦争をしないで済むようにする外交努力であり、正しい情報の元の合意形成です。これは、まちづくりにも通じることです。まちに住む人たちに正しい情報を伝え、話し合い、合意形成を得たうえで進めていくのが本来のまちづくりです。今、品川の区政運営はそれが行われているのでしょうか？何よりも、早い時期からの情報公開と、区民の声を聴く姿勢が問われているのではないのでしょうか。

「地域から政治を変える」を心に刻み、これからも諦めないで声をあげていきます。同じ思いの皆さまと一緒に、まずは足元から、そして日本全体を道理に沿った、平和な国にしていきたいと思っています。大番狂わせと言われた先の補欠選挙、諦めずに私に託して下さった皆さまの声を政策に活かし、議会で提案していきます。暮らし発・市民の声を、私の力にしていきます。

いながき 孝子

■品川・生活者ネットワークいながき孝子の活動を紹介します。

いながき孝子さんを応援します

三木由希子 NPO法人情報公開クリアリングハウス理事長

社会の多様性、地域の人々の生活の多様性に対し、議会は多様な人々を代表しているのかが問われています。市民の立場から、社会のひずみに目をむけ、前向きに取り組む生活者ネットワークに期待しています。



山口二郎 法政大学教授/立憲DEMOKRASHYの会共同代表

地域から生活者のための政治を実現するネットワーク運動が始まって、40年以上たちました。政治の世界には挫折や後戻りがありますが、これまでできたこともたくさんあります。生活不安が広がる今、改めて生活者の政治を実現するために、共に頑張りましょう。



大村 究 羽田問題解決プロジェクト代表

堀 利和 視覚障害者・元参議院議員

藤田愛子 一般社団法人生活サポート基金前理事長

岩永やす代 東京・生活者ネットワーク都議会議員

北野富江 元品川区議会議員

三村りつ子 元品川区議会議員

市川和子 元品川区議会議員

井上八重子 品川・生活者ネットワーク代表/元品川区議会議員



実現しました!

- CAP (暴力防止プログラム) 導入と中学校へも拡大を要望
- 子どもの声を行政につなぎ、下神明駅に危険防止ポールを設置
- 子どものいじめ・虐待・生きにくさを見逃さない! 子どもの権利擁護機関の設置を提案し続け、「しくみが必要」との区長答弁を引き出す (2022年12月)
- 品川区の用品リストに無添加石けんの掲載が実現
- 防災計画に、女性視点と避難所運営会議への女性登用が明記
- 視覚障がい者宛ての公文書封筒に切り込み目印を導入
- 重度身体障がい者通所施設に児童の日中レスパイト活用を実現
- 自死防止カードの配布先拡充
- ヤングケアラー支援に、実態把握と職員研修が実現
- まちづくり系の説明会に手話通訳者を配置 (2020年~)、手話通訳タブレットを窓口に設置
- 区公式ホームページに条例を基に定めた要綱を公開
- 教育委員会議事録が逐語録に変更 (2016年4月~)
- 教育委員会の情報一部公開決定に不服申請、審議会で全面公開を勝ち取る
- 区議会本会議場に車椅子利用の傍聴者のための昇降機設置
- 政務活動費の収支一覧を公開 (2013年度~)
- 本会議インターネット中継が開始、再質問もCATVで放映拡大
- 議員個人々の議案表決態度の公開 (2018年7月~)
- 議案、委員会資料が区議会HPに公開 (2017年2月~)
- 選挙公報の一人当たりのスペースを拡充 (2023年4月~)
- 区ホームページに予算書・決算書の公開が実現 (2021年~)
- 情報公開手数料の無料化

地域包括ケアの第歩は相談から支援につなぐしくみです。誰もが気軽に相談できる窓口・地域包括支援センターが近くにあり、求めるサービスにつなぐ——しかし、区は独自策をとっている、区内20カ所の在宅介護支援センターが高齢者の在宅生活を支えているとされています。区の現状をよりよく変えていき、縦割りを超えた包括的な機能こそが要請されていることを、しっかりと提起し、実現にもつなげていく所存です。

私・いながき孝子は、「地域包括ケア」のまちづくりを、実現したい政策の一つに掲げています。しかし、残念ながら品川区は地域包括ケアは課題が山積しているのが実情です。

例えば、地域包括支援センターの内実です。本来は、「3職種の常駐が求められ」「主任ケアマネジャー等」「保健師等」「社会福祉士等」が各最低1人は必要です。また、厚労省が求めている機能は4つあり、「総合相談支援業務」「権利擁護業務」「介護予防ケアマネジメント」「包括的・継続的ケアマネジメント支援業務」です。かつ、一番問題なのは、このセンターの存在自体が知られていないこと。先日、もうそろそろ終活をしたが、どこに相談したものかわからないという地域の声を聴きました。

縦割りから脱し、乳児から高齢者まで 包括的な切れ目ない支援を

昨年の品川区議補欠選挙で初当選。2022年品川区議会第4回定例会最終本会議場で、請願の賛成討論に立つ区議会議員のいながき孝子。2023年1月12日



私らしく生きる ための政治

品川・生活者ネットワークいながき孝子の提案

1. 子ども・若者の未来を拓く品川へ

- 子どもの育ちを応援する子どもの権利条例を制定する
- 子どもの相談・救済・回復をサポートする権利擁護機関を設置する
- 子ども・若者議会を実現し、子ども・若者の声を政策に反映する
- 保育の質を高め、かけがえのない「子どもの時間」をまもる
- 学校給食は完全無償化し、夏休み給食デイ・オーガニック給食デイをつくる

2. 高齢になっても障がいがあっても、誰もが暮らしやすいまち

- ケアする人もされる人も大切にする「ケアラー支援条例」をつくる
- 合理的配慮を踏まえた「障がい児・者差別禁止条例」を制定する
- 医療・介護・障がい福祉をつなぐ横断型の相談体制をつくる
- 困窮者支援のワンストップ相談窓口と伴奏型支援を拡充する
- 地域包括ケアの拠点を整備・拡充し、世代を越えて在宅生活を支えるしくみをつくる

3. 私が私のままでいられるジェンダー平等社会へ

- ジェンダーの視点で政策を見直す! 包括的性教育 (人権教育) を進める
- 女性の人権を守る! 被害の救済・支援のしくみを整える
- 女性も男性も生活者! とともに子育てできる環境を整える

4. いのちをつなぐ環境優先のまち

- 原発ゼロ・ストップ地球温暖化! 省エネ・再エネ 100%のまちを市民とともにめざす
- 食の安全確保は公給食から! 遺伝子組み換え食品・ゲノム編集食品は使わない
- 健康と生命、住環境を脅かす羽田新飛行ルートは撤回! リニア中央新幹線はいらない!
- 福祉の視点で地域防災のしくみを見直し、女性の参画を増やす

5. 情報公開を進め市民が自治するまちをつくる

- 無作為抽出の市民ワークショップを政策立案に取り入れる
- 小中高校を通じて、シチズンシップ教育や労働・消費者教育を充実させる
- 公共施設の新設・建替えや都市計画道路の見直しは市民参画で!
- 参加と協働を実践する「自治基本条例」をつくる



ともに活動しています

品川・生活者ネットワークの区議会議員。左から、田中さやか(2期目)、いながき孝子(1期目)、吉田ゆみこ(2期目)

みなさまのカンパをお待ちしております

郵便振替口座 00130-9-161299 品川・生活者ネットワーク
★1,000円以上のカンパをいただいた方には、東京・生活者ネットワークが発行する生活と政治をつなぐ情報紙: 月刊「生活者通信」を1年間お届けします。

- 生活者ネットワーク3つのルール
- ① 議員は交代制 (ローテーション)
 - ② 議員報酬は市民の政治資金に活かす
 - ③ 選挙はカンパとボランティアの手づくりで